

4 . 下水道事業の多様な事例

下水汚泥処理の共同化の推進

今治市吉海町、大三島町、上浦町の3処理区では小規模な処理場のため発生汚泥量が少ないので、各々の処理場に定置式の汚泥処理施設を設置する事は建設費及び維持管理の面から不利になる事が多いことから、各処理場を巡回し脱水する移動式脱水車により建設コストの縮減および維持管理の共同化を図っています。

【移動脱水車による汚泥脱水】



下水処理水の再利用の推進

今治市上浦町では、水資源の有効利用として、下水処理水を公園や庭木の散水用水、洗車用水、及び柑橘類の散水用水等幅広く活用することにより、渇水時の水不足を少しでも軽減させることを目的に処理水再利用を推進しています。

なお、本施設は平成16年度第13回いきいき下水道賞『下水道有効利用部門』を受賞しました。

上浦町 井口浄化センター

貯水容量 A= 300 m³
(有効面積 123 m² × 有効水深 2.3 m)
鉄筋コンクリート造構造物



資源の有効利用の推進

今治市大三島町では、温暖な気候及び地理的に日射時間が長い特徴を利用して、太陽光発電システムを採用しています。

発電された電力はオキシデーションディッチの攪拌ばっき装置に供給されています。

大三島町 宮浦浄化センター



設備容量

仕様

設備容量

21.8 kW

(太陽電池モジュール90.9W ×240 枚)

電池総面積

152.6 m²

(太陽電池モジュール0.636m² ×240枚)

年間発電電力量：22,902 kWh/年

(月平均 1,909 kWh)